



2026年 7月 8日
第2号

JR東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



JR東労組横浜地本第31回定期大会

確認された大会宣言

大会宣言（案）

JR東労組横浜地本は7月5日、かながわ労働プラザ多目的ホールにおいて第31回定期大会を開催し、スローガン、運動方針を含め全組合員で組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

2026 JR総連春闘は、年末手当のたたかいから組合員との対話にこだわり、組合員の強化をめざしてきた。「決められない、あたり切れない」から「やり切る」ことにこだわってきた実践や、分会・支部・地本が一体となって取り組んできた実践、会社回答に対する機関声明を発出するにあたり組合員とつくり上げてきた実践など、多くの教訓が語られた。

賃金制度改革とベースアップを合わせて、平均11.36%賃金上昇するという数字マジックを使った回答に対して、対話を通じて会社回答に騙されない組合員もつくり出してきた。

一方で、小さな変化を掴みだすことにこだわってきたものの、実践や教訓がなぜできたのかまで掘り下げることができていない課題も浮き彫りとなった。2026 JR総連春闘総括から教訓を掴みだし、更なる組織強化・拡大へと繋げていこう。

7月1日、「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」が施行された。職場の管理者もよくわからないままスタートしている。提案されてから議論を繰り返し修正提案させるなど、職場からのたたかいで一部成果を勝ち取ってきた。しかし、「競争型年功賃金」とも言うべき評価制の人事・賃金制度が導入された。我々は、過度な競争を職場に持ち込み、安全を脅かすものに反対の立場は変わらない。横浜地本職場討議資料で議論してきた3つの行動提起を全組合員で実践して、会社の狙いを打ち砕こう！

JR東日本は3月18日、「グループガバナンスの改善に向けた取り組みについて」を公表した。しかし、その内容に対して有識者からも「企業風土にメスを入れず、社員個人の責任に押し付けている」「心理的安全性の低さがあり、不正・不適切行為が早期発見されにくい」など、指摘する声が出ている。しかし、このことに関して、社友会から何ら見解はない。会社にチェック機能を果たせるのはJR東労組しかできない。「命と安全」を最大の価値基軸として、「安全・健康・ゆとり」のある職場をつくり出すために、組合員・未加入者と議論し、JR東労組への結集を呼びかけ、過半数代表者選挙の勝利を実現しよう。

「被害者が加害者とされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」の裁判で、副長が手を出した行為は「目的が正当で手段も相当」「社員への制止は口頭のみが許されるというものではない」と、管理者に反発する社員には暴力を振るっても良いと言わんばかりの会社姿勢が明らかになった。「管理者の言うことには黙って従え」という会社姿勢を許してしまえば、安心して働くことはできない。会社の傲慢な姿勢を許さず、健全なJR東日本会社をつくり出すために駅頭ビラ配り等で、真実を自らの言葉で大衆に語りかけ広範なたたかいをつくり出そう。

先の衆議院選挙で自民党圧勝により、戦争への道が着実に進んでいる。そこに危機感をもった多くの市民が行動を起こしている。沖縄平和研修で学んできたことは「勝つ方法はあきらめないこと」。平和は国が守ってくれるのではなく、我々の行動によって守っていくものである。今こそ、多くの市民と連帯して「憲法9条改悪反対」を掲げ、「抵抗とヒューマニズム」の精神で、JR東労組に賛同する横浜地本推薦議員等懇談会と全ての仲間とともに、平和で安心して暮らせる社会を実現するために行動していこう！

以上、宣言する。

2026年 7月 5日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部第31回定期大会

平和で安心して暮らせる社会を
実現するために行動していこう！

全組合員で組織強化・拡大を実現していこう！